

# いきものみっけ



News.  
Vol.9

発行:いきものみっけファーム滋賀推進協議会  
電話:090-7966-2262 Fax:0748-68-0598

編集:事務局 竜王 住所:甲賀市土山町黒川  
E-mail:ryuoh-mtm@maia.eone.ne.jp 平成27年7月31日発行

## 淡海こどもエコクラブ交流会

2014.12.14 琵琶湖博物館

滋賀県環境学習センター主催で、県内で活動することもエコ

クラブのメンバーやスタッフ一六〇名が集まり交流会が開催されました。それぞれの活動内容を発表し生きもの調査や星空観察清掃やリサイクル活動、地域の聞き取り調査や交流活動など、子ども達が今年一年間の様々な環境活動の成果を発表されました。わが寺子屋メンバーが外部で発表するのは初めてでしたが、緊張の中、一年間の成果を発表できました。他の団体や学校の『見せ方』『ストーリー性』も勉強になりました。

## 寺子屋成果発表

に行ってきました。



特に大賞を滋賀県知事大賞は、「渋川小学校 生き物学習実行委員会」の取り組み

は学校を揚げてされている強みと子どもたちの自主性、発表方法は、「すごい」と思いましたね。

主催者からは「いきものみっけファーム」は、環境省の「いきものみっけ」から派生した活動で、いきものみっけ寺子屋さんの活動は滋賀の代表的な活動として 評価

していただき度に向けて頑張りましょう。

他の団体に質問する北君

## 淡海の川づくりフォーラム

2015.1.10 コラボしが



テーブルセッション

淡海の川づくりフォーラムでは、滋賀県流域政策局と当フォーラム実行委員会が主催で“川や水辺と共生する暮らし”、“川や水

辺と私たちのいい関係”について、川や水辺にまつわる活動を実践されている団体が、公開選考方式のワークショップを通じて、それぞれの交流の中で議論を深めるもので、最終グランプリなどが決定されます。午前中の全体発表では3分であつた

### 前嘉田知事と、三日月知事にも名刺をもらう子どもたち



3つのグループに分かれて、質疑などのセッションにて、グループごとの優秀団体が午後に残ります。同じ甲賀市から出場されていた「杣川と親しむ会」が選考され、エールを送っていました。これもコンテンツ形式でありましたので賞狙いであれば、一次審査を通過しなければなりません。そんな気はさらさらなかった私たちは、午後からは大津・琵琶湖でのんびりとかまえていたら、お昼のポスターセッションにより、まさかの復活選者に選ばれ、午後から再度発表することになりました。嘉田前知事や顔なじみの審査員さんからも、「観察シートを用いた生きもの調査」への関心と期待を寄せられました。

「来年は、この期待ください」と適当なことを言う私でした

め、大急ぎでの発表。その後、

# 近畿子ども水辺交流会

2015.1.24 京都テルサ



で取り組んでいる水辺活動や調査等を発信し「水辺」への関心

近畿「子ども水辺」交流会は、国土交通省近畿地方整備局、滋賀県土木交通部、流域政策局、河川・港湾室が関わり大學生等をメンバーとして実行委員会形式で主催されています。近畿府県にて小中学生等が学校や地域

や愛着の向上、子どもたちの水辺活動の継続と広がり、上下流や府県を越えて「水辺」に関わる方々の交流、共につくり、守り、育てる「水辺づくり」を指して、平成16年度から開催



オープニングの大学生寸劇

されています。滋賀県からは8団体・学校が参加しました。全29団体、約350名の子どもたちの参加。

去年度は、滋賀県が開催地で会場琵琶湖で「つみのこ」「ピアンカ」の乗船と贅沢な内容でした。今年は、京都。



みんなで仲良くなろう

テーマは、**歴史都市京都で考えよう水辺のむかし、いま、これから**で実行委員である大学生の司会、寸劇によるオープニングから始まったのも子ども達には受けました。そして、



グループごとに分かれてテーブルセッション。今回は、少し緊張もおさまり落ち着いて発表出来たようです。



他のグループからの質問感想

なにして、「審査でない」というのが気楽でしたね。水辺が共通のキーワードでしたが、生きも

の調査の定番のものから、ゴミ拾い、ゴミによる魚への危害、中学生科学部などは化学的な水質の統計分析もありました。発表の都度、聞いている子どもたちは、付箋に感想を書き、意見交換します。わが寺子屋の農業体験の発表は、都市部の子どもたちは「うらやましいな」「楽しそう」との意見が聞かれています。また、コーディネーターからも「田んぼは生きものの宝庫」とのフォローもありました。



午後からは、グループ交流会で、「学びの証づくり」をしました。大学生のコーディネーターのもと、「どんな水辺がいいかな？」のテーマに対して

- ①文化②環境③防災の視点からどのように意味あるものかをグループでまとめました。

そして、全体交流会では、再度参加団体全員がホールにあつ

まり意見交換しました。5年前もそうでしたが、難しいテーマでも子どもたちがポンポン意見を出し合います。①文化では、「遊びたくなる川」が子どもたちの一押しでした。「安全に遊べる川がいいな」との意見も出ていましたが、うちの北君が挙手、「安全なんて言っていたら、遊べないよ」の一撃があり、会場が笑い。②の環境では、「自然を大切に守る水辺」③防災では、「防災について学べる川」そして「多くの人に伝えること」にまとまりました。一日でいろいろな刺激、交流を受け、学びの多い日でした。



全体ワークショップ

今回の3回の発表は、自分たちの活動の自信、振り返り、そして来年度企画への参考になるものですね。良いところを参考にし、オリジナルを作ってくださいませ。